



トヨタ超え!? 国内シェアNo.1の「ビンファスト」

北陸銀行 国際部
ホーチミン駐在員事務所
トレーニー 中原 央都

1. はじめに

私は日本からベトナムに来て、道路を行き交うバイクの多さに大変驚きました。中でもひととき目を引くのが「ビンファスト」社製の水色のバイクです。

バイクはベトナムの主要な移動手段のひとつです。調査によると、ベトナムのバイクの世帯保有率は86%とされています。バイクが普及している理由として、狭い道が多いこと、公共交通インフラの整備が不十分であることなどが挙げられます。

今回は、ベトナム最大のグループ企業「ビンググループ」が生んだ国産車ブランド「ビンファスト」をご紹介します。



色鮮やかなビンファスト社のEVバイク
(筆者撮影)

2. ビンググループの多角化戦略

ベトナム最大のコングロマリットである「ビンググループ」は、ファム・ニャット・ブオン氏が2000年に創業し、不動産、医療、農業、教育と多角的に事業展開することで、ベトナムの経済成長に大いに貢献してきました。

(1) EVメーカー「ビンファスト」

2017年、自動車事業を担う「ビンファスト」を設立し、2021年12月にベトナムで初めてEV自動車の販売を開始しました。2022年7月にはガソリン車の生産を完全に停止し、EVに経営資源を集中する戦略に舵を切りました。同社は創業以来、現在まで連続して赤字を計上していますが、現ビンググループ会長のファム・ニャット・ブオン氏から多額の資金援助を受け、市場シェアを拡大させています。

ベトナム国内におけるビンファストの四輪新車販売シェアは、2025年4月時点で約30%となり、トヨタ自動車を抜いて首位に立ちました。2025年1月～11月では、累計販売台数が14万7,000台を超え、13ヶ月連続でベトナム国内販売台数首位を維持しています。

(2) 今後の事業展開

現在、ベトナム政府は2050年カーボンニュートラル目標に向けてEV車普及と充電ステーション等のインフラ整備を進めています。

具体的には、EV車購入者向けの消費税減税や自動車登録料の免除、ハノイ市中心部でのガソリン車の走行禁止（2026年7月～）、ホーチミン市での配達・ライドシェア用バイクのEV化推進（2029年末まで）など、大都市で段階的にガソリン車の規制強化を進めていくことが計画に盛り込まれています。

また、2030年までにすべてのタクシーをEV車にするという目標も掲げています。こうした施策の実現のため、ベトナム市場において益々ビンファストのEV車が普及していくと考えられます。



ビンファスト社製EVタクシー
(筆者撮影)

3. おわりに

ビンググループは、ベトナム政府の後ろ盾を得てEV車への積極的な投資を行い、普通では考えられないほど早いスピードで国内の市場シェア拡大を続けています。また、ベトナム国外市場への販路開拓にも注力していることから、日本でビンファストのEV車を見かける日もそう遠くはないのかもしれませんが。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
((株)人材情報センター内)
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp